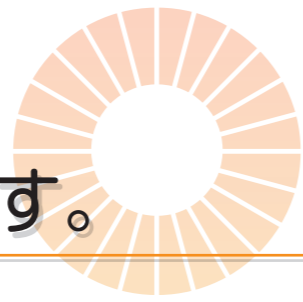


5. 平湯モデルの配架

本を「活きのよさ」で分け 開架の魅力アップさせます。



平湯モデルの家具もレイアウトも、この配架の考え方に沿ってつくられています。これは高校の例ですが、小・中学校もこれに準じます。



楽しみ読みのエリアをつくる-2

⑤ 大きな本は別置ですっきり

A4を超えるB4、A3などの大きなサイズの本は美術書、写真集、絵本などの、目で眺めて楽しむ本がほとんどなので、集めて専用のコーナーをつくります。

図面の例は高校図書館ですが、小学校では、絵本を中心に抜き出して、201-Dの湾曲絵本架に配架し、901のカーペットと組合せて、「絵本とお話のコーナー」にします。紙芝居は201-Hに、大型絵本は201-Gに、それぞれ配架します。

中学・高校・公共図書館では、大型本を抜き出して、107-Dの湾曲大型本架などに配架し、302の丸テーブルや、303-Aの四角テーブルと組み合わせて、「眺めて楽しむ本のコーナー」にします。

それ以外の本に、稀に混ざっている大型本は、107-Cの大型本架に集めて、元あった場所の近くの、目につきやすいところに置きます。

この作業をすることで、他の書架の片づきがぐっとよくなります。平湯モデルの書架が棚板固定でも困らない理由でもあります。

楽しみ読みのエリアをつくる-3

⑥ ④～⑥をまとめて館の手前に

残った中から9類の読み物を抜き出し、9類用の101-A・Cの床置中書架に配架します。文庫、新書、新聞、雑誌なども、それぞれ専用の書架に配架します。

これら④～⑥を、図書館の手前に集め、「楽しみ読みのエリア」にし、利用者をひきつけます。

⑦ 「調べ学習のエリア」をつくる

最後に残ったのは、0～8類の資料になるはずですが、これ等を閲覧机を囲むように、10進分類順に配架し「調べ学習のエリア」をつくります。ここでは、101-B・Dの床置中書架や、103-B・Dの壁面高書架などの、「9類以外用」の書架を使います。

2クラス同時に使える図書館の場合は、理科系と文科系の2つにエリアを分けると、より使いやすくなります。

平湯モデルの配架の手順

① 不要なものを廃棄する

準備段階として、蔵書の中から、古い資料など明らかに役に立たないものを廃棄します。廃棄できないときは、箱詰めなどにします。

② 汚損しては困るものを裏に

残ったもののうち、なくなったり汚損したりしては困る貴重なものなどを、閉架書庫に配架します。

③ 利用が少ないものを奥に

更に残ったもののうち、かたい全集ものや専門的過ぎるものなど、開架にはするが利用は少ないという資料を抜き出します。これを館の奥のほうに10進分類順に配架して、「開架書庫」とします。この開架書庫に置くものを第2線の資料とし、残ったものを第1線の資料とします。(特に高校図書館で)

楽しみ読みのエリアをつくる-1

④ 「活きのいい本」を抜き出す

ここから、利用者にまずは読書に親んでもらうための、楽しみエリアをつくります。

まずは残った本から、今話題の本、ベストセラー、ロングセラーなどの、よく利用される活きのいい本を抜き出し、101シリーズの床置中書架などに配架します。

新着本は401-Cの新着本架や、401-Aの楕円展示台に置いてアピールします。本の展示には、403-A・Bのブックトラックも使えます。

